

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100433		
法人名	株式会社春風会		
事業所名	春風会かたおなみグループホーム		【ユニット名:1階ユニット】
所在地	和歌山県和歌山市和歌浦東4丁目3-51		
自己評価作成日	平成25年1月15日	評価結果市町村受理日	平成25年3月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症ケアの質の向上と職員個々のスキルアップを常に目指しています。職場における日々の職員の気付きを大切にしながら、ヒヤリハット、事故については自発的にインシデント報告を提出してもらい、直近のカンファレンスで話し合い、改善に向けての対策を検討して職場にフィードバックするということを継続している。また地域の『集いの場』としてご近所の方、ご家族がいつでも訪問できるように話し合っている。地域の中核として開かれたグループホームであるよう職員一人一人が意識を持って対応している。特に自治会活動である防災訓練、一斉清掃には積極的に参加している。また地元小学校での敬老会や夏祭り、中学校の文化祭にご招待を頂きご入居者と職員が共に参加して地元の関係者やご近所とのつながりを大切にしており、そのご縁が広がり、深まりつつある。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JisyoNoCd=3090100433-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JisyoNoCd=3090100433-00&amp;PrefCd=30&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会		
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F		
訪問調査日	平成25年2月5日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に開かれた事業所運営に努め、自治会や運営推進委員会を通して地域住民との関係を築いており、地域の拠点としてケアや困りごとの相談にも応じている。入居者が家庭的な雰囲気の中で、馴染みの関係を維持して生活できるよう取り組み、家族の訪問や外出、外泊、も支援しており、職員は共に生活する家族の視点を持って関わるよう努めている。入居による環境の変化に配慮して、法人併設の事業所で通所や泊まりのサービスを利用したのち、グループホームへ入居することができるよう支援している。また、入居者が潤いに変化のある生活を送れるように、日曜日には色々なクレーションを工夫して行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム玄関先に理念を掲げ、業務マニュアルにも掲載している。月2回のカンファレンスの冒頭に毎回、理念に基づいた職務憲章を唱和し、それぞれの職員が共有できるように取り組んでいる。	法人の理念を基に、全職員でグループホーム独自の理念を作り、日々のケアの指針としている。「地域と共に」「平等な信頼のきずな」等の言葉を大切に実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや、地域の一斉清掃、防災訓練等にご入居者と共に参加している。中学校の敬老会等にご招待いただき、ご入居者と出席している。買い物や散歩の際には、ご近所の方と挨拶を交わしお話をさせていただいている。	自治会活動にも積極的に参加して地域との関係を築いている。地域に溶け込み、小・中学校との交流もある。住民とのつながりも深まり、普段から近隣の人と言葉を交わせる関係ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会にご協力いただき、ご近所の独居の方を訪問させていただいたり、回覧板でパンフレットを回して貰い、認知症の事やお困り事があれば相談を受ける旨を周知している結果、徐々に相談を受けることが増えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月ごとに開催し、ご入居者、ご家族、ご近所、知見者等に参加していただき、意見交換させていただいた内容については、毎日の申し送り時やカンファレンスで報告し、実践してサービス向上に活かしている。	幅広い意見を運営に反映できるよう多くの入居者や家族が参加できるよう工夫しており、家族が参加しやすい日曜日に開催することもある。地域の津波の防災にも具体的な意見交換をして備えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居者数、待機者数の報告をし、グループホーム便りを送付している。和歌浦支所には運営推進会議のご案内状とグループホーム便りをお届けしている。必要に応じてオムツの支給等のご相談をしたり、認定申請をお願いしている。	市が和歌浦支所で行っている健康体操や研修に参加している。常に情報交換を心掛け、相談に出向く中で、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンス、新任研修、現任研修、グループホームの研究発表のテーマにも「身体拘束をしないケア」について取り組み、理解を深めながら日々実践している。日中は玄関に施錠せず、適宜センサーを使用し、職員同士が連携しながら見守りを行っている。	身体拘束廃止委員会を発足し「不適切なケアで、虐待にならない様に」と職員にアンケートを取り「どんな時に虐待が出るか」を把握し、職員間で共有してケアに活かしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記と同じく職員間で虐待についてのアンケートをとったり、インシデント報告を自主的に書き、虐待の芽を摘む不適切なケアの見直しを職員一同で意識を持って取り組んでいる。		

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:1階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員が権利擁護に関する研修会に参加して学ぶ機会を作り、ご入居者への支援に役立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約又は改定等の際には十分にご入居者やご家族等に説明を行い、ご理解を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者、ご家族からの意見要望は、お電話や面会時に拝聴し職員に周知すると共に、見直しに向けての取り組みや改善策を話し合い、運営に反映させている。定期的に会議や、懇談会にも参加していただいている。	普段の訪問時や、電話、メール等でコミュニケーションを図り、家族の意向をくみ取るように取り組んでいる。年1回、茶話会を行い、家族からの色々な悩みや意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の主管者会議、毎月2回のカンファレンスやリーダー会議等で、職員の運営に関する意見や提案を聞く機会をつくり、運営会議に反映させている。	会議やアンケート等で職員それぞれの個性を生かした意見を集め、日々のケアに取り入れている。休憩室の設置等、職場の環境改善にも職員意見が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の主管者会議を開催し、状況を把握しており、管理者や職員との個々の面談をして意見を聞き、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内はもちろん、外部研修にも積極的に参加できるように勤務体制に配慮し、情報提供や機会を確保している。研修の内容や学びをカンファレンスで発表して職場に活用するように周知している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	和歌山県認知症支援協会の会員であり、認知症の方を地域で支援していくネットワークを広げ、研修会や講演会、学習会への参加をして質の向上を目指した取り組みをしている。		

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:1階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いや希望、困っていることに傾聴し、安心して暮らしていただけるように、居室でゆっくりお話をしたり、ソファで横に座って話しやすい雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が面会にこられたときは、必ず顔を合わせ、ご入居者の近況報告をして、何かお困りやご相談はありませんかと、こちらから声をおかけするように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずご本人、ご家族が必要とされている支援について、お話を聞かせていただき、状態を把握し、ニーズに対してのアセスメントをして、その結果支援の方向を導きだしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1ユニットを自宅と考え、職員とご入居者が共に生活をする者同士という気持ちで一緒に過ごせる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者のご家族との連絡を密にして、いつでもご面会していただける環境を作り、共に情報を共有して協力しながら支えていけるような関係を築くように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やお友達の訪問は絶えず受け入れ、電話の取次ぎや、ご家族との外食や買い物支援、週末や盆・お正月などの帰省の支援などにも努めている。	家族との関係が継続できるよう訪問、外出、外泊を支援している。、図書館や喫茶店等、個々の入居者の馴染みの場所にも出かけられるよう支援している。	馴染みの場所に出ていく以外にも、話を聞き、それぞれの思い出に付き合うのも支援の一つと捉え、今後の取り組みに期待する。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士の関係を見極め、一緒に食事や雑談ができる環境整備をしている。相性の悪い方との座席や時間の調整をしてご入居者が孤立しないような支援に努めている。		

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:1階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅の方には、担当ケアマネを通して情報を聞いたり連絡を取るようになっている。病院や施設の方にはご家族様に経過を聞いたり、面会などしていつでもご相談に応じる関係性を構築している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	好みの献立や飲み物を取り入れたり、外出の希望に応じている。困難な方は、ご家族様等にそれまでの暮らしぶりなどをお聞きし、ご本人の反応を伺いながら意向に沿うように努めている。	入居者本人を良く見て、小さな気づきにも配慮した対応が出来るように、職員研修にも力を入れて取り組み、暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用して、若い頃から今までの生活状況や職業、交流関係、趣味や特技などを会話の中から聞き取り、生活歴や馴染みの暮らし方の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日勤、夜勤職員の申し送りや日課表をもとに、ご入居者の1日の過ごし方や心身状況を情報共有している。居室の担当職員によりセンター方式を活用してアセスメントをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月2回のカンファレンスで、ご入居者に関する状態変化を把握するようにしている。またご家族からの意見を傾聴しそれを反映して介護支援専門員の資格を持つ計画作成担当者が介護計画を作成している。	多くの職員がアセスメント、計画、評価に関わって取り組んでいる。計画の更新月だけでなく、変化のある時はその都度きめ細やかな見直しを行い、必要なケアを提供している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者記録や特記事項の申し送りを通じて情報の共有をし、実践や介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスとの交流や、家族の希望やご本人・ご家族の希望に応じた訪問による、リハビリやマッサージ、通院介助などの支援をしている。		

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:1階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしができるようにボランティア、理髪店、図書館、学校、スーパー、介護タクシーなど多くの地域資源を把握できるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの主治医に往診を依頼するなど、サービス利用以前のかかりつけ医との関係も大切にしている。ご希望があれば協力医療機関へご紹介をし、往診していただけるような関係を築いている。	協力医療機関以外の個々のかかりつけ医とも往診等の連携を図っている。緊急時は家族に連絡後、医療機関に繋げている。受診時には個別ファイルを持参して情報を伝え、受診後は記録をし適切なケアに努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員はご入居者の体調変化や気づきを看護職員に伝え、主治医の適切な指示や受診ができるように協働している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の担当医師や看護師との情報交換のためのカンファレンスをして早期退院ができるように勤めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ターミナル時におけるご家族の意向を伺い、グループホームでの支援のあり方について説明をして方針を共有し、ご家族・主治医と協力して取り組めるように努めている。	入居時に家族の希望を聞き、ターミナルに入る前に「看取りに関する指針」を渡し再度話し合っ方針を決めている。ターミナル期の経験を重ねるごとに、職員も成長し、夜間の緊急対応にもチームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを作成・設置し、急変時に対応すべき指導をしている。AEDをレンタルして常設し、使い方を学ぶためにビデオを職員で鑑賞している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策衛生委員会を設置し、定期的に避難訓練や備蓄の更新をしている。夜勤等の時間帯の状況に合わせた非常訓練は計画中であるが、全職員が身につけるまでには至っていない。	地域の防災訓練に入居者と共に参加している。管理者は防火管理者の資格を取り自衛消防団を作り、市に登録している。定期的に消防署の人の話を聞いているが、取り組むたびに新たな課題が見えてきている。	今後必ず起こるといわれている地震についても、詳しいマニュアルを作る等さらなる取り組みに期待する。

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:1階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃から「人格尊重」の観点から名前をお呼びする際や声かけには特に配慮している。誇りやプライバシーを損ねないように、排泄や入浴介助も出来るだけ自分で出来ることをして頂き、さりげなく支援すように心がけている。	普段でも敬意を持って、入居者には名字に「さん」付けで呼ぶことを基本とし、本人の気持ちに合わせて変える配慮もしている。介助の時は同性介助で、常に本人の尊厳を大事にするように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	季節折々のお食事やおやつ希望、毎日の着たい洋服、見たいテレビ番組や居室での過ごし方など自己決定による選択が出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活パターンはある程度決まっているが、その日の体調や気分によって変更が可能であるように柔軟な対応をしている。その人のペースを大切に支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節等の環境や行事ごとなど状況に応じた服装やおしゃれができるように助言したり、お手伝いしている。必要なときは、買い物に同行したり、希望に応じカットやパーマ、毛染めなどの外出支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや寿司酢の味付けなど、調理の準備をしていただいている。おにぎりやいなり寿司作りなど、その人の力を活かしながら、職員と一緒に取り組んでいる。また盛り付けや配膳のお手伝いもお願いしている。	メニューは担当者の素案に入居者のリクエストを加えて職員が調理している。個々の入居者が持つ力を発揮できる場面と捉え、できることを手伝ってもらっている。外食の機会も設け食事の楽しみを支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別の嚥下や咀嚼機能に応じ、食事や水分にトロミを使用している。自己摂取を促しながら、能力に応じて介助をしている。昼間・夜間ごとの水分量を把握し、定期的に水分補給を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に口腔ケアの支援をしており、歯磨きを望まれない方にも声掛け等で促すよう努めている。歯ブラシが使えない方には歯磨きティッシュを使用したりして清潔保持に努めている。		

【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:1階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するなど、個別に排泄支援をしており、尿意、便意のない方には定時誘導をしてトイレで排泄をして頂けるようにしている。排便については、排便表に記入して排便リズムを把握するように努めている。	快適に排泄できるよう入居者の習慣や思いにも配慮して個々に対応している。常時おむつ使用とならないように、パッドとりハビリアパンツを使用しながら、自立にむけた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の対応としては、水分量の確認や、献立、食材の工夫をしている。排便リズムを把握して主治医の指示で薬による排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順や湯温度など出来る限りご入居者の希望にあわせて入浴支援をしている。寝る前に入浴したいと希望される方には夜勤者が対応することもある。	入浴を嫌がる入居者にも本人の気持ちに配慮して、安心と安全を感じてもらえる言葉かけや対応を行い、隔日に入浴できるよう取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を促すために寝具や空調整備をしている。ご本人の希望に応じ午睡を促したり、起床時間についても柔軟な対応に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬管理ファイルを作成して、副作用や用法になどが解るようにしている。薬の仕分けは、看護職員が行い、服用時は複数の職員で名前、日付等を確認してからご入居者に服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除機かけ、植物への水遣り、調理準備、配膳等出来る限り役割を持って取り組んでいただいている。季節の行事や誕生日会等には、ご希望に応じて嗜好品を取り入れ、ノンアルコールビールなども喜ばれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に応じて、ご近所への散歩や散髪、買い物、墓参りなどの外出支援をしている。ご家族にも協力を得てドライブや外食等に行かれている。	普段の買い物や散歩以外に、ハーブ園、花見、ミカン狩り、和歌浦の「しらすまつり」にも出かけている。誕生日に自分の好きなケーキを買いに出かけるなど、個別の外出も行っている。車イスを使用する人が閉じこもりがちにならないように配慮している。	気分転換と足腰の機能維持の為に、より多く外出の機会が持てる工夫を期待する。



【事業所名】春風会 かたおなみ ユニット名:1階ユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で管理できる方がほとんど居られないので、管理者が小口現金としてお預かりしている。欲しい物があるときは預かり金で買えることをお伝えしている。金銭の所持を希望される方には、ご家族と相談して所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に自宅に電話をしてご主人の声を聴いたり、息子様と話したり出来るように支援している。又ご自宅からの電話はご本人に取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を出すために四季の花を活けたり、快適にお暮らしいただけるように空調管理や床暖房の設置をしている。気持ちよく使っていただけるようにトイレや浴室、台所は適宜ゴミの回収や掃除をして清潔を心がけている。	1階はやや手狭ではあるが、入居者の気持ちに合わせて、食事のテーブルの配置を行い、親近感が生まれる空間になっている。食事後寛げるソファを置き、壁には、入居者の誕生会の時の似顔絵を貼って和んだ雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置や食事テーブルの配置を工夫して気のあったご入居者同士が楽しく過ごせるように工夫しているが、十分な広さを提供することはできていない。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時からご家族に協力をいただいて、日頃から使用されている馴染みのタンスや寝具、鏡台などを持ってきていただいている。ご希望でラジオや趣味のものを持参されている。居室の空気の入替えや入居者様と一緒に部屋掃除をしている。	入居者の好みに合わせて畳も使用でき、使い慣れたタンスなど本人が居心地良く過ごせる品々を持ち込んでいる。入口には入居者が作ったのれんを掛けてその人らしく過ごせる工夫をしている。	直接目に入らないようなオムツの置き場所など、羞恥心や、プライバシーにも、さらにきめ細かく配慮した支援を期待する。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	職員同士で、入所者様の「できる事」「わかること」を共有し、必要に応じて部屋からトイレまでの手すりを設置している。各居室にはセンサーマットを敷き、居室内での立ち上がりや移動が安全かつ自立して行えるように支援している。		